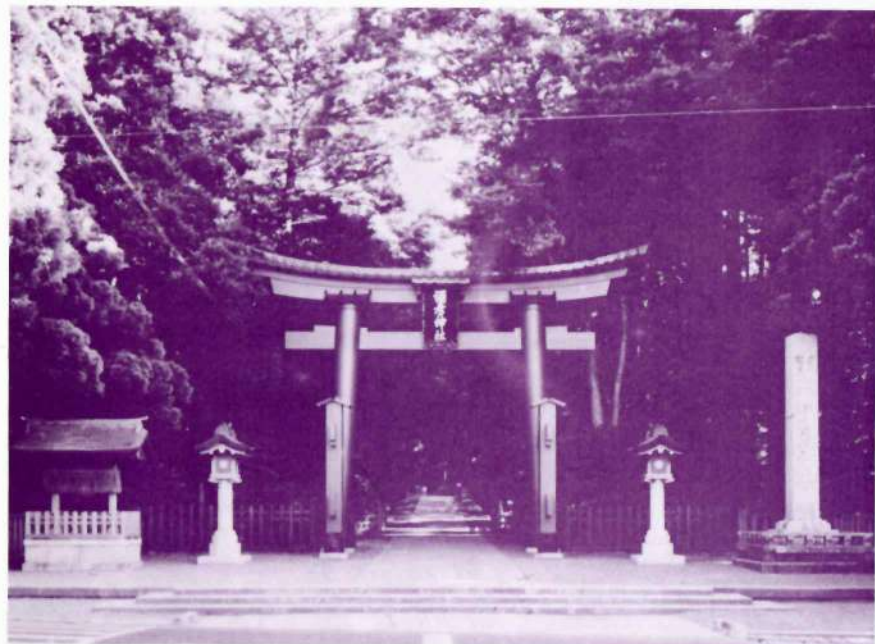


越後国一宮 彌彦神社

(元国幣神社)

新潟県西蒲原郡弥彦村大字弥彦鎮座



一の鳥居

御祭神

天香山命(アメノカゴヤマノミコト)

天照大神神の御曾孫で、又の御名を高倉下命(タカクラジノミコト)とも申し上げ、天孫御降臨に供奉して降り紀州熊野に住み、神武天皇御東遷の時、師霊(フツノミタマ)の剣を奉って大功を立てられた。天皇即位の四年勅を奉じて越後の国土開発のために御来臨、野積浜に御上陸の後、弥彦山の東麓に宮居して当地方を鎮撫し、住民に漁業、製塩、農耕、酒造等の術を授けて民福の増進に力を用い給う。神孫亦之を継承して当地方の産業文化の基礎を造られた。

命は実に越後文化産業の始祖神である。

由緒

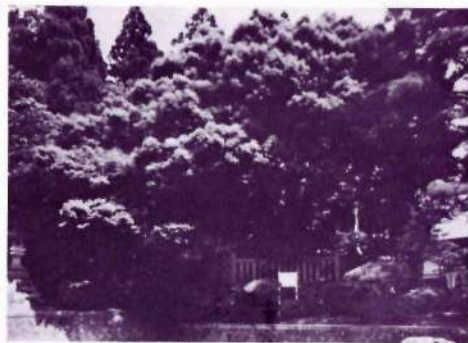
当神社は、御高徳を敬慕し奉る国人が、吾等の大祖神、越路開発の神と仰ぎ奉って、この地に奉祀せるに始まったので、その年代は詳かでない。

社記によれば和銅四年(七一一)詔により神域を拡げ社殿を増営し、仁明天皇天長十年(八三三)此の神の靈験あらたかなるにより、名神祭に預り、延喜の制には名神大社に列し、村上天皇の天曆元年(九四七)に正一位に進まれた。当社は古来朝廷のご崇敬篤く、明治天皇は、御一新にあたり明治十一年、北陸ご巡幸に際しご親拝相成り、昭和四十七年には、昭和天皇、皇太后陛下お揃いでのご親拝の光栄に浴し、さらに昭和五十六年には、皇太子、同妃であられた天皇、皇后両陛下のご参拝を仰いだ。

このように皇室をはじめ戦国の武將、徳川の將軍等の崇敬頗る篤かったが、それにもまして顕著なのは当地方民衆の崇敬である。中世以前は、本社の大祭には国司以下国内の民衆挙って奉仕したが、戦国の乱世以後その事も絶えて専ら各部落や組を単位に、信仰団体である数多の講が組織され各地に参拝講や神楽講が結成されて盛に「お弥彦参り」が行なわれた。今でも此の講参多、地方には「お弥彦さま参り」の済まない男女は一人前と認められず、結婚出来ないという風習が残っている程で、弥彦信仰がいかに民間に浸透していたかが窺われる。

社殿と御神木

一の鳥居を潜って神札授与所で左折し手水舎前に来ると、右手の旧本殿跡と並んで石欄を囲らした浄域があり、そこにはこんもりと茂った椎の太木がある。社伝には、御祭神が携え来られた椎の杖を地中に挿し、もし此の地が自分の住むべき土地ならば繁茂せよと仰せられたところ、芽を出し根を生じて太木となったと語り伝えられている尊い御神木である。



御神木



拝殿

よるつ代に仕へまつらむ 弥彦の
杉の下みち い往きかへらひ 良寛

[illegible]

社 末 摄

石段を登りつめて一步随神門に入ると、眼前にはおん金具の光も鮮かな御社殿の全貌が現われて思はず敬虔の念にうたれる。拝殿、本殿、祝詞舎、神饌所と神社建築の粹を集めて造られたこれらの建物が、それぞれに均衡を保ちながら総合して醸し出す美しさは、周囲の緑林と相映じていよいよ美しく一段と荘厳である。其の他域内には最近建築した瀟洒な社務所や宝物殿をはじめ、飯殿、舞殿、拝観所、斎館、神馬舎、絵馬殿等が樹間に整然と立ち並んでいる様は、流石に全国屈指の大社である。

境内には万葉の昔を偲ぶ鹿苑があつて十数頭の神鹿が遊び、又鶏舎には、県内愛鶏家の

◆ 摄影末社

妻戸神社	妃神	熟穗屋姫命
三島郡寺泊町野積		
武島神社	第一嗣	天五田根命
本社境内		
船山神社	第二嗣	天忍人命
西蒲原郡卷町福井		
草薙神社	第三嗣	天戸国命
今山神社	第四嗣	建箇草命
勝神社	第五嗣	建田背命
乙子神社	第六嗣	建諸隅命
本社		全
二十二所神社・八所神社・十柱神社		
(以上本社境内)		
火宮神社・住吉神社・上下諏訪神社・祓戸神社・湯神社		
(以上境外)		



燈籠神事

舞
樂

当神社には数々の舞楽がある。大別するとその第一は神歌楽と天犬舞、第二は大々神楽、第三は小神楽である。神歌楽と天犬舞は最も重要なものと言いつゝえられ、大々神楽は十三曲に分れ、小神楽と共に奉奏される外、一般奉斎者の奉納により奉奏する。いずれもその伝統は古く洗練をへたもので、昭和二十七年県無形文化財に指定。昭和五十三年燈籠神事と共に国の重要無形民俗文化財に指定。



舞の弓

◆ 宝物案内

室町時代の手法を伝える元禄年間
の萱葺の建物で、昭和二十六年重
要文化財に指定。



宝 物 殿

志田大太刀

應永二十二年に古志郡夏戸の志田三郎定重の奉納。刃渡二・二〇四米中心一・〇一八米の巨大な太刀昭和二十五年重要文化財に指定

大鉄鉢

嘉曆元年、中条の住相次郎孝基の奉納。高さ三五・四匁、口径五九匁余の名器、昭和三十四年重要文化財に指定。右の他、当神社の宝物として世に喧伝せられているものに、青磁香炉、巴散雙鶴鏡、鞍鎧、後醍醐天皇の勅額、全天皇御奉納の三十六歌仙額、上杉謙信の願文、大久保石見守奉納の金燈籠等がある。

◆弥彦公園

国鉄弥彦駅に近い弥彦公園は、当神社の外苑で面積約十五・五ヘクタール、美しい自然の地形に人工の美を加え、滝あり谷あり高台あり、隧道あり、名園の名高く花に紅葉に訪れる人は多い。大正の頃越後鉄道の社長久須美東馬翁苦心の築造で、昭和三十四年その遺徳を顕彰して園内に銅像が建てられた。



観月橋



↑弥彦山頂御神廟



弥彦山

◆弥彦山

いやひこの高嶺の雲のかがやかに越の國原夜はあけむとす。
(相馬御風)

御本殿の背後に聳える弥彦山は、越後の國で最初に朝日に輝く山で、「越後は弥彦山から」と言われ、海拔六三八米の頂上には御祭神の御神廟があり、一名神剣峰とも言われている。この主峰に対し北方にある峰を十宝山と称し、御祭神が神宝を納められたと伝えられている。

元来弥彦山は神聖な霊峰として拝まれて来た山であり、弥彦山の姿のうちから弥彦大神の神威を拝するという信仰が、彌彦神社崇敬の根幹となつて現在に至っているのである。

山頂からの眺望の素晴しさは全国でもその類少なく、東に沃野千里の越後平野とこれを潤す信濃川の悠々たる流れを望み、西は日本海の白波脚下を洗い、はるか洋上に浮ぶ佐渡が島を望める雄大な展望は実に絶景、佐渡弥彦国定公園に指定されているのも当然である。山上には日本山岳会の建てた高頭仁兵衛翁の記念碑や、展望台等もあり、又NHK・民間放送のテレビ放送塔、国警・県の行政防災無線塔、超高層大気光観測所、弥彦山気象レーダー観測所、東大地震研究施設等があつて、神のいますこの山上から電波にのせて新しい文化の光を日夜県内外に放っている。

神社から御神廟まで三・三八軒、(徒歩で約一時間半)、ロープウェイで(五分)、スカイライン(約三十分)で頂上に達することができ、誰でも容易に登ることのできるようになった山頂では、御神廟に詣でては心を清め、眺望をほしいままにしては心楽しむ参詣者で賑わっている。



奉納菊花展



神鹿

子供らよ いざ出て往かむ

伊夜日子の

岡のすみれの

花にほひ 見に 良寛



◆菊花展

毎年十一月一日から二十四日まで新潟県奉納菊花展が行われる。県内全域より約五千点に及ぶ、優秀なる大小の菊が献花され、拝殿前の広庭に展陳して、御神慮を慰め奉ると共に、数十万の参拝者の眼を楽しませる。最優秀品には文部農林両大臣賞が授与される。